

てみると、時刻表で書いたものとは違っていました。要するにJR西日本は事故が起こったらどうするかという事をきっちりやっていたのです。起こらないようにしようとしている、それでも、起こったらどうするかというのをやれていなかった。そして、それを助けたのは近所の女性だった、そういうことです。

臨界事故を起こしたのは、こういうことです。この二人の人が死んでしまったのです。死んでしまったので何も残っていない。だけど、現場に行くと、全部それを見てきたから、僕は自分で想像して、現地、現物、現人をやった結果で書いた絵です。こういうふうにして臨界が起こってこの二人の人は死にました。

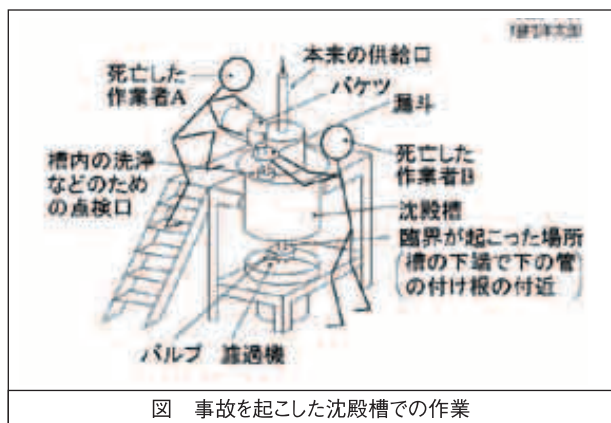


図 事故を起こした沈殿槽での作業

こんな絵がどこにも書いていないのです。死ぬ前にやった作業がこうなら、なぜこの絵を描かないのか。要するに事故の調査委員会とかいろいろな事が出てくるけれど、次の人が同じ事をやらないで、きちんとその知識を使うのにどうすればいいかという事を誰もやっていない。仕方がないから描いたのです。

今度は日本航空です。御巢鷹山にぶつかった飛行機です。ボーイング社の手抜きでこのお椀の形をした隔壁という所でインチキな工事がやってあった。そうとは知らないで520人も乗っていて、御巢鷹山に落ちてしまった。真中にあるのが垂直尾翼、斜めにやっているの一枚板で作らなければならないのに、ボーイングの技師がいい加減な絵で指示したので、作業員は左のように斜めの線でやっているものを2枚別々のジュラルミンの板で作った。それで墜落してしまっただけです。

これは現場まで行ったもので、僕が撮っている写真は衝突し

た所です。向こう側から飛行機が飛んできて、ここへぶつかった。20年前に木をみんな投げ倒したのです。そうしたら、今、育ってきたのに、その部分だけ元々低くなっていたから、今でもあそこの所に谷間のようになって、穴が開いています。日本航空は去年いろいろなミスが起こって、お客離れがひどいのです。それで、そのままにしているのは、あまりにおかしいということで、どうしたらいいかと社長に頼まれたので、至急、この隔壁の展示をおやりなさいと。それで本当に日本航空は4月の20日から隔壁の展示を始めました。そして、今までの日本航空とは違うと、本当に自分たちのところで起こったひどかった事を開けっぴろげにきちんとお見せしますという事で、今やっている所です。これが先ほどのぶつ壊れた隔壁の実物です。

ハインリッヒの法則、もう先ほど説明しましたがこんなようになっています。

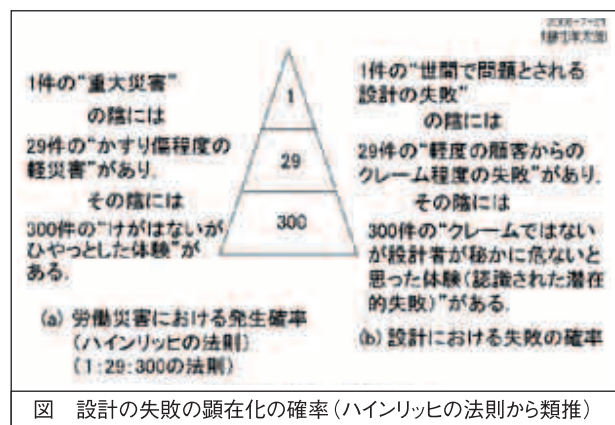


図 設計の失敗の顕在化の確率 (ハインリッヒの法則から類推)

これは日本航空の場合のトラブル、細かいトラブルがどう起こったのかというので、6件あります。整備、航空、客室というのがあって、これは国土交通省が改善命令を出した時のトラブルの項目です。しかし、これは表に出てきたものだけ、何もしなければいずれ重大事項が起こります。なぜかという、従来やってきた原因究明というのは、中間の所をやっているのですよ。一番、根本の所まで入り込んでいないのです。組織の文化とかそこにいる人の考え方とかチェックリストを作ったら、チェックリストのとおりにはやるのかなど、そういう当たり前の事が全然、型どおりにはできていないのです。しかし、実体がそうならないか